

## 委員会等の会議録

1 会議名	愛南町福祉関係計画策定懇話会(第1回) (高齢者福祉計画・介護保険事業計画)	
2 議題	(1) 実態調査にみる高齢者の現状について (2) 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画について (3) その他	
3 開催日時	令和5年10月10日(火) 18時30分から20時05分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5 傍聴者数	0人	
出席者		
6 委員氏名	砂田 陽子、竹場 妙、鎌田 先、齋藤 弘文、森岡 眞由美、 長岡 健治、森岡 知昭、伊藤 孝徳、高橋 啓、酒井 平雄	
7 担当所属	所属名	高齢者支援課、地域包括支援センター
	担当職員 (職・氏名)	課長兼センター長 織田 浩史 課長補佐 濱田 由貴、加洲 能子、山本 正浩 地域包括支援センター所長補佐 小島 美和、 前田 美幸、森口 弘喜
8 その他の 出席者	組織名	株式会社ぎょうせい
	出席者	渡邊 厚志、百々 宏知、市川 圭介
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
(事務局) 加洲課長補佐	<p>愛南町高齢者福祉計画・介護保険事業計画に係る策定懇話会を開会します。</p> <p>この会議は、住民参画推進条例に基づき会議録としてホームページにて公開しますので御了承願います。</p>
(事務局) 織田課長	<p>(開会挨拶)</p> <p>議事につきまして、愛南町懇話会の設置及び運用に関する要綱第5条の第2項の規定により、担当課長の私が進めさせていただきます。</p> <p>それでは議題(1)「実態調査にみる高齢者の現状について」事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局) 前田所長補佐	<p>(実態調査にみる高齢者の現状について説明)</p>
(ぎょうせい) 百々氏	<p>(資料1「在宅介護実態調査集計結果」について説明)</p> <p>(資料2「在宅生活改善調査集計結果」について説明)</p> <p>(資料3「居所変更実態調査集計結果」について説明)</p> <p>(資料4「介護人材実態調査集計結果」について説明)</p>
(事務局) 織田課長	<p>ニーズ調査と実態調査の説明が終わりました。この調査結果等から課題等を抽出し、計画に反映させることを目的としています。この件について何か御質問御意見等はありませんか。</p>
鎌田委員	<p>愛南町の介護の報告を聞いたのですが、今マスコミ関係などでよく言われている外国からの介護職員は、愛南町には何人いるのですか。そして、その介護職員の教育体制、それらはどうなっているか、分かっていたらお聞きしたいのですが。</p>
(事務局) 小島所長補佐	<p>外国人労働者の雇用というところでは、現在なんぐん館でインドネシアの方を3名雇用されていると伺っています。また教育体制については、関係機関等と協働されて指導されていると伺っています。</p>
(事務局) 織田課長	<p>伊藤委員、何か補足ありましたらお願いします。</p>

発言者	発言内容
伊藤委員	<p>今インドネシアから3人技能実習生という形で来られています。日本の介護技能の優秀なところを学んで持って帰ってインドネシアでそれを発揮するというので、彼女たちはそういう資格を全部持っていて、その上で日本語教育と日本の介護技能をそれぞれ学んで約3年間で完成するというシステムで教育しています。</p>
(事務局) 織田課長	<p>はい、ありがとうございます。ほかに御意見等ございませんか。</p> <p>次の議題に移ります。議題(2)「第10次高齢者福祉計画、第10期介護保険事業計画」について説明をお願いします。</p>
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>(第10次高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画について説明)</p>
(事務局) 織田課長	<p>今回、御説明した計画については今の段階ではあくまでたたき台であることは御留意いただいた上で、御意見いただければと思います。計画策定の流れ、制度の変遷、国の指針、また高齢者を取り巻く現状や特に介護認定者の状況、介護サービスの利用件数や給付費等の推移について説明していただきましたが、以上の点につきまして何か気になる点や御質問等ございませんか。</p>
鎌田委員	<p>第9期の介護保険事業計画を聞いたのですが、私、年金受給者でこの介護保険料がかなりのウェイトを占めてきていると思います。どの高齢者の年金受給者の方も、天引きでかなりの金額が介護保険料で引かれます。これは高齢化社会になって高齢者の方の人口比率がこれからもずっと大きく広がっていく、若い人が少ないというような現状の中でどうすることもできないことではありますが、今生活費などもかなり値上がりして、高齢者の年金受給者の方が大変な生活を強いられていると思います。これどうすることもできないのですが、愛南町の介護保険料は県下で何番目ぐらいになっているのでしょうか。</p>
(事務局) 織田課長	<p>県下での介護保険料の順位ですが、高い方からの順でいけば令和4年度は14番目になります。</p>

発言者	発言内容
鎌田委員	20市町村のうちの14番目ですね。それでは、あまり高くはないですね。ちなみに一番高いところはどこですか。
(事務局) 織田課長	一番高いところは東温市です。愛南町は6,100円、東温市は7,278円です。一番低いところは上島町が5,039円です。
鎌田委員	5,000円から7,000円の間ですね。分かりました。これから介護保険料も決めていくと思いますが、この委員会でこういう声も出ていたというのを聞いてもらうだけで、それでいいです。
(事務局) 織田課長	はい、ありがとうございます。介護保険料は、サービスの量などそういったものにかかなり反映されます。愛南町の場合は特別養護老人ホームなど施設が多いので、どうしてもその分高くなるのではないかと考えていますが、御意見として承ります。ほかに御意見ございませんか。
森岡委員	先ほど説明された第9期計画の中で、今後は介護人材の確保が一番大事だと言われましたが、私の近くでも介護に関係する仕事をしている人がたくさんいます。愛南町では今現在、介護に携わっている人はどのくらいいますか。おおよそでいいです。
(事務局) 織田課長	細かい数値は持っていないので大体の数字ですが、町内の介護保険サービス事業所及び施設に勤務する介護従事者の人数ということで大体700人ぐらいです。
森岡委員	それで、介護人材の確保がこれから大切だと言われたら人口は少ない上に大変ですよ。私もこれから介護してもらう順番ですけど。
伊藤委員	先ほど外国人の労働者を入れていると申しましたが、いくら募集しても人は集まらないのです。だから仕方なく、外国人も入れるしかないです。ましてやこれから75歳以上の高齢者、ここ10年くらいは横ばいですよ。それなのに20歳から60歳の働ける人が半減してきます。そしたら働く人はいないのです。その中でどうやって介護をやっていきますか。老老介護どころか認認介護になるおそれがありますし、働く人がいないということを今後の計画に盛り込まないと、今回はいいかもしれませ

発言者	発言内容
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>んがその次はもう破綻することを心配しています。</p> <p>先ほどの話ですが、我々の強みというのは全国の自治体を回っているということで同様の議論をよく聞きます。その中で、今国が何を考えているか、あとそれぞれの自治体がどこに悩みがあるかというところをお話ししますと、まず国が今回の調査に介護人材の実態調査を急遽初めて入れました。ここでみても30代が人数的には多いですが、ここで出てきている早期離職という形、要は20代から一番元気なところで10年間働いた方々が結婚を機にこの介護職を辞めてしまう現象が出てきています。いろいろな状況もありますが、お金の部分もありますし、あと先輩方が辞めているので先がない、要はロールモデルがないというところで自信喪失してほかのところに行くといったことが出てきています。別の話ですが、今、子供子育てに力を入れていますので、うちの娘は保育士ですが給料が上がっているそうです。それと同じ現象がこの介護スタッフに対してもお金の部分でのサポートを本格的に考える時期になるのではないかと思います。介護人材の調査を行うことによって、全国的に危機的な状態がどこの自治体も起きていますので、そこで働いている人たちが、どうすればこの仕事を続けていくのかというところを、国は総力を挙げてヒアリングしている状態です。ですので、9期の保険料は、おそらく介護報酬が来年の1月辺りに出されるときに、介護職員に対しての給与というところも大きく算出されるというところなんです。本当に人数が少ないところについてはもう死活問題で人材の取り合いというところまで来ていますので、良い御質問だなと思って聞いていました。全国的に今悩まれている状態です。ここには必ずメスが入ると思います。</p>
(事務局) 織田課長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
伊藤委員	<p>この愛南町の高齢化は、愛媛県の中でも国の中でもトップを走っているほど高齢化が進んでいる地域でして、実際に利用者がいてもケアをする人がいないという状況になっています。最先端を走っている者としては、どのようなことを今後、助言していただけますか。先ほど介護職に対しては、手当が増えるかもしれませんと言われましたが、確かに介護手当は増えていま</p>

発言者	発言内容
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>す。それも非常に複雑な仕組みになっていまして、事業者の持ち出しもないと加算ができないような仕組みになっています。それで、僕らいわゆる高齢化の最先端をいっているところでは、どのようなことができるのかということをお教えいただければと思います。</p> <p>難しい質問ですが、あえてお答えします。まず介護にお世話にならないエリアがあります。そこは今分析をしているところですが、簡単に言いますと働いている高齢者が多いところです。やはり社会参加が一つのポイントになります。一般的な話ですが、女性の高齢の方は非常に活発で元気で、旅行に行ったりおいしいものを食べたりすごくおしゃべりです。一つのポイントが男性です。男性は「もうこんな子供みたいなことをやられてるか」という考えで、うちのおやじもそうでした。全然出なくて、そのうち車での移動が大好きでしたが車もなくなってというようなところで、そこがやはり一つのポイントになっていて、男性が社会的に参加することです。農業などをされている方は比較的介護のお世話にならないことがありますので、それが運動なのか介護麻雀とかそういう賭け事がいいのか分からないですが、やはり男性の方、女性も含めて興味を持って外に出て、人と触れ合って一緒に御飯を食べたり、お酒を飲んだりしてもいいと思います。そういうところを根本的に見ていかないと、介護にお世話になったり、認知症が入ると、これはもう改善するのは難しくなります。そうすると、まず認知症をどのように皆さんが理解するのか、認知症に対しての講習、それから告知、こういうことも重要になると思います。決して怖いものではないです。理解すればいいので、そういうことも含めて頑張っていかなければいけないかなと思います。そういう理解とそれから社会参加、体操をムーブメントにして、それが結果的には介護にお世話になる方が減ることもあると思います。やはり先進事例がいろいろ出てきますが、町の特性に合って、どこからやっていくのかというところが一つのポイントになるかと思っています。</p>
伊藤委員	そこは助言していただけるのですか。
(ぎょうせい)	先ほども御説明しましたように、これから課題を一つ一つ検

発言者	発言内容
渡邊氏	証をしていきます。同時に我々こういったアンケートからのデータを含めて行うということと、あと我々の会社には全国先進事例を検索できるデータベースがありますので、その中から事務局の皆様とお話をしながらどの部分を改善していくかという話になったときに、人口の多い所のお金がかかることは難しいと思いますので、お金がかからないアイデアで改善できたらと思います。我々は、そういった支援をこれからしていく予定です。
伊藤委員	ありがとうございました。期待します。
(事務局) 織田課長	はい、ありがとうございます。そのほか何か御意見ございませんか。
長岡委員	私は、2025年に後期高齢者の仲間入りをする最後の団塊の世代です。それで、大きな不安を持っています。というのは、やはり今の介護施設ですよね。私も身内のために探していますが、該当するところがないという実態があります。昔、待機児童とか待機園児、そういうものが社会現象としてありましたが、今おそらくこの要介護の人たち、待機の人がたくさんいると思います。その辺のところをどうケアしていくのか、今回の会でそういうものが詳しく出てくるのかどうなのか、そういうところの見通しをお聞かせ願いたいと思います。
(事務局) 織田課長	はい、ありがとうございます。施設入所、特に特別養護老人ホームの待機者は、ある程度おられます。令和4年の3月末のデータだったと思いますが、3年に1回、県の調査がありまして、そのときの待機者数の実人数が120人くらいだったと思います。そのうち在宅での待機者数が57人で、この数字は実は減少しています。3年ごとに調査していますが、平成20数年頃でしたら多いときは400人というような数字でしたが、徐々に減ってはいます。ですが、待機者がいることには間違いないので、そういった方々についてはなかなか施設に空きがないので、そのほかのサービス、在宅サービスでつないでいくしかないのかなと思っています。施設を整備すると、またそれが保険料に反映されるという介護保険の制度自体がそのようになっていますので、難しいところかなと考えています。

発言者	発言内容
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>少し補足させていただきます。たたき台の10ページをお開きください。上のグラフで65歳以上が平成22年と平成27年のところで、人数がすごく増えています。これが、令和7年12年17年になると人数がどんどん減っていきます。これ全国的にはピークアウトという言葉が使われていて、8期のときにはこういうことは言われていませんでした。介護を受ける方の人数が減っていく現象というのはこれから出てきます。今までは、どんどん増えていきましたが、これから減っていきます。そうすると施設、もう箱物ができているので、ここで人が余るまではいかないですが、そういう時代になってくるのではないかと思います。先ほど事務局から説明がありましたように、これからは施設をつくる時代ではなく、むしろ施設の中で空いたスペースを利用する新しいサービスを考えなくてはいけない時代に入ります。9期、この後10期についてはもっとこの議論が活発になります。そのときに介護職員の方に夢を持たせるような新しいサービスをどんどん生んで、介護サービスを受けないといけな方に対して、今までなかったサービスをしていかないといけな時代になってくると思います。</p>
伊藤委員	<p>それに加えて人が減るので、結局定員を削減します。働く人もいないので、定員を削減しないとイケません。だんだん箱物も小さくなります。ですので、介護難民が絶対に出ます。介護する人がいなくなるのですから恐ろしいことになると思うのですけれど。</p>
鎌田委員	<p>やはり人口減がすごく大きなウェイトになるようですが、その上、高齢者が増えていき過疎化が進むと、介護職の人員不足もあって大変になります。余分なことですが一つ、僕が感じていることを申し上げます。愛南町の介護職員を僕も何人か知っていますが、働き方改革、医療関係、介護職員の給与アップなど国の施策でやっているみたいで、前はよく辞める女の人がいいたように感じたのですが、最近は介護職員の方、施設に勤めている方は結婚して辞めるなどの特別なことは別として、辞めずに楽しく施設で仕事をしているところが見受けられます。ほかの職に比べて、やはりその職場がいいムードで、辞められたら困るということでやっているわけではないのではないかと思います。</p>

発言者	発言内容
(事務局) 織田課長	<p>います。介護職員の人、愛南町は辞める人が少ないです。それを補足として申し上げておきます。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p>
酒井委員	<p>教えていただきたいのですが、介護をする方が減っているということは、ほかの産業でも全く同じだと思います。自分も農業に関わっていますが、農業関係も関わる人が減っているということが非常に大きな問題です。その対策として、一つは機械化ということをうちも取り組んでいます。介護関係も将来的に機械化、機械を導入することによってそういった人材不足の部分を補える可能性というものをどうお考えかというところが非常に気になるので、もし情報があれば教えていただきたいです。</p>
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>私は生まれが五島列島で、そちらでも仕事をしていますが、そこで一番元気の良い施設長と1時間ぐらい話をしました。実際に働いている方とも話をしましたが、非常に元気ですよ。ここはすごく働きやすいと言っていて、そのとき耳のところにインカムをつけていたので、格好いいなと思って「それ何ですか」と聞いたら、「これがすごいですよ」と言うのです。「何がですか」と聞いたら、その人たちが働いている中で一番大変なのが、1日くたくたに働いた後に個別に書類を書くことだそうです。それをこのインカムに口頭で言っていくと自動的に文字に変換されるので、これが一番良いそうです。それと一人で介護しているときに、ほかの人に「ちょっと今助けて」とインカムで言われると、その場ですっと行くことができるそうです。全職員がインカムを使っていて、五島市ですから離島の手当なのか分からないですが、そういうものが手当として助成金が出ているような話を聞いたときに、僕はICTといったら何か重いものを持つサポートであるとか、あとは体の調子を自動的に測定する機械などを思っていたのですが、そういった介護職員の方々の負担を軽減するような機械、きめ細かい機械が出てきています。これは私が知っているぐらいですから、職員の方は知っていると思います。そういったものを入れることによって、何を軽減すれば1日の作業が楽になるかというところを皆で考えていけば、かなり軽減するのではないかなと。私がこの話を</p>

発言者	発言内容
(事務局) 織田課長	<p>聞いたときに、これからはこれだと思いました。今はワイヤレスインカムも1万円ぐらいで買えますが、それを使ってデータを取り込む機械が多分高いと思いますが、それも数多くの事業所がとっていけば値段も下がってくると思いますし、何かそういう時代に一つなってきたのかなと思いました。</p>
(事務局) 織田課長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
伊藤委員	<p>なんぐん館もインカムは入っています。事務作業が軽減されました。ただし、ケアというのは人と人が手を握って初めて成り立つものですから、そこはどうしてもロボットやインカムではどうしようもないですね。</p>
(事務局) 織田課長	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>この議題(2)についてはこの辺りで締めさせていただいて、今までの議論については介護計画の中で検討させていただきたいと思います。</p> <p>最後に議題(3)「その他」に移ります。まず、事務局から何かございますか。</p>
(事務局) 加洲課長補佐	<p>今後のスケジュールについてお伝えさせていただきます。懇話会は全部で3回開催する予定です。懇話会の第2回目を12月18日の週で、第3回目を2月に開催したいと考えています。第2回目の懇話会で事業内容を検討していただきまして、1月にはパブリックコメントで広く町民の意見を聞かせていただいた後、第3回目の懇話会を開催します。早速ですが、12月の開催日を明日、明後日で決めたいと思いますので、委員の皆様には御連絡させていただきます。</p>
(事務局) 織田課長	<p>事務局からは以上ですが、委員の皆様からも全体的な御意見、その他の御意見等ございませんか。</p>
竹場委員	<p>今回資料1から資料4の実態調査、すごく興味深く読ませていただきました。計画の中の実態調査による高齢者の現状というところは、今までは何となくこのたたき台の流れで現状をまとめられていたようなのですが、今回、施策って課題の抽出か</p>

発言者	発言内容
(ぎょうせい) 渡邊氏	<p>ら施策ができるわけで、こちらの実態調査も反映すべきではないかなと思います。やっぱり施策を考えられる中で、根拠となる資料として実態調査も入ったりしますか。是非、入れていただけたらと思います。</p> <p>今回、数が多いのでやり方を考えようと思っています。ただ、おっしゃるように、やった調査は何らかの形で課題を載せないところの課題はどこから出てきたのだという話になると思います。ただ冒頭のニーズ調査だけでもかなりのボリュームを入れていますので、あれを少し減らせて、今回後半で御説明した内容を少しミックスするような形に作っていかないといけないかなと私も考えています。これは今後、事務局の皆様と相談をしながらバランスを考えていきたいと思っています。</p>
竹場委員	<p>施策の優先順位があるはずなので、そこに結びつくような結果は載せた方が納得いくのではないかなと思います。</p>
(事務局) 織田課長	<p>事務局としてもぎょうせいと相談しながら、いただいた御意見はもっともなことでございますので検討させていただきたいと思っています。ほかに御意見ございませんか。</p>
砂田委員	<p>ちょっと分からないので教えてください。介護職の方は、私が知っている限りではパートさんも多いです。専門的な資格がないと伊藤委員が言われているような大きい施設では仕事はできないのでしょうか。</p>
伊藤委員	<p>資格のない方もいらっしゃいますよ。是非どうぞ。</p>
砂田委員	<p>家で時間がある方もいると思うので、長時間じゃなくても、例えば午前中だけの4時間とか何か良い方法があるような気がしました。</p>
伊藤委員	<p>資格のない方には資格を取るコースを設けていますし、援助もしていますので、是非宣伝してください。よろしく願います。</p>
(事務局)	<p>介護人材が不足している中で、そのようなお話ありがとうございます</p>

発言者	発言内容
織田課長	<p>ございます。周りに関心のある方、短時間でもというような方がおられましたらPRをお願いしたいと思います。ほかにございますか。それでは長時間、活発な御議論ありがとうございます。</p> <p>以上をもちまして、愛南町福祉関係計画策定懇話会を閉会します。本日はありがとうございました。</p>